

北海道駒ヶ岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

11月26日に山頂の浅い所を震源とする規模の小さな地震がやや増加しましたが、27日以降は概ね少ない状態で経過しています。

また、昨日（5日）実施した現地調査では、昭和4年火口や明治火口の地熱域や噴気の状態に特段の変化はありませんでした。

引き続き活動の推移に留意していく必要がありますが、現時点で火山活動が活発化する様子は認められません。

火山活動の状況に変化があった場合には、随時お知らせします。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震の発生状況等（図1-④～⑧、図2）

11月26日09時頃から山頂直下の浅いところを震源とする規模の小さな地震が増加し、同日22時までにはふもとの西山麓観測点で4回、山頂の剣ヶ峯東観測点で44回観測しました。その後は12月4日に剣ヶ峯東観測点で6回観測された以外は少ない状態で経過しています。西山麓観測点では地震は観測されていません。これまで地震活動以外に特段の変化は認められていません。

2001年以降、数年に一度山頂直下の浅いところを震源とする地震が増加したことがありますが、その際は地震活動以外に特段の変化は認められていません。剣ヶ峯東観測点で1日あたり10回を超えたのは2006年11月19日以来です。

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～③、図3～7）

昨日（5日）実施した現地調査では、本年5月22日や7月27日の調査結果と比較して昭和4年火口や明治火口の地熱域¹⁾や噴気の状態に特段の変化はありませんでした。

監視カメラによる観測でも噴気の状態に変化はありません。

引き続き活動の推移に留意していく必要がありますが、現時点で火山活動が活発化する様子は認められません。火山活動の状況に変化があった場合には、随時お知らせします。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

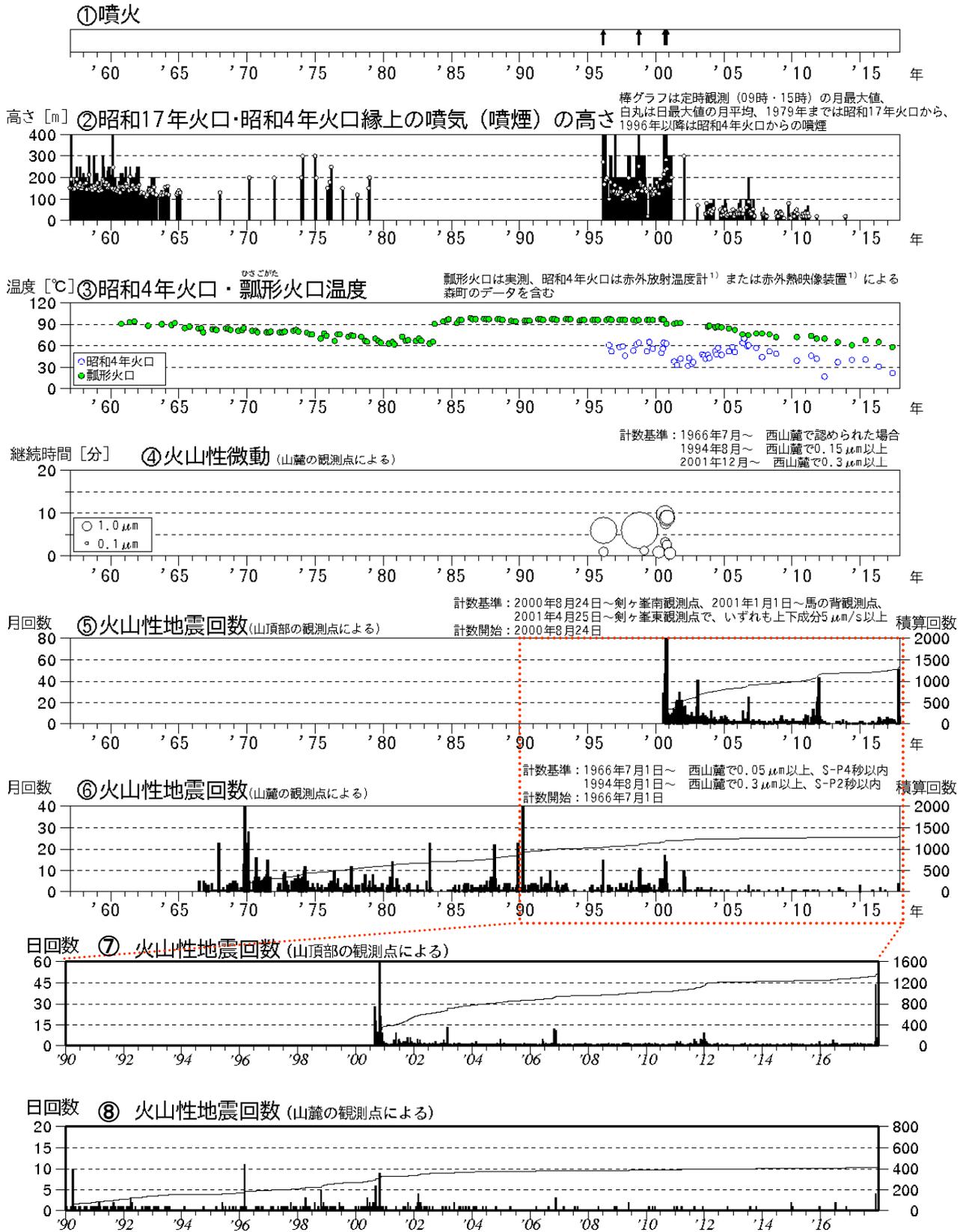


図1 北海道駒ヶ岳 火山活動経過図

①~⑥ 1957年1月~2017年12月5日 ⑦~⑧ 1990年1月~2017年12月5日

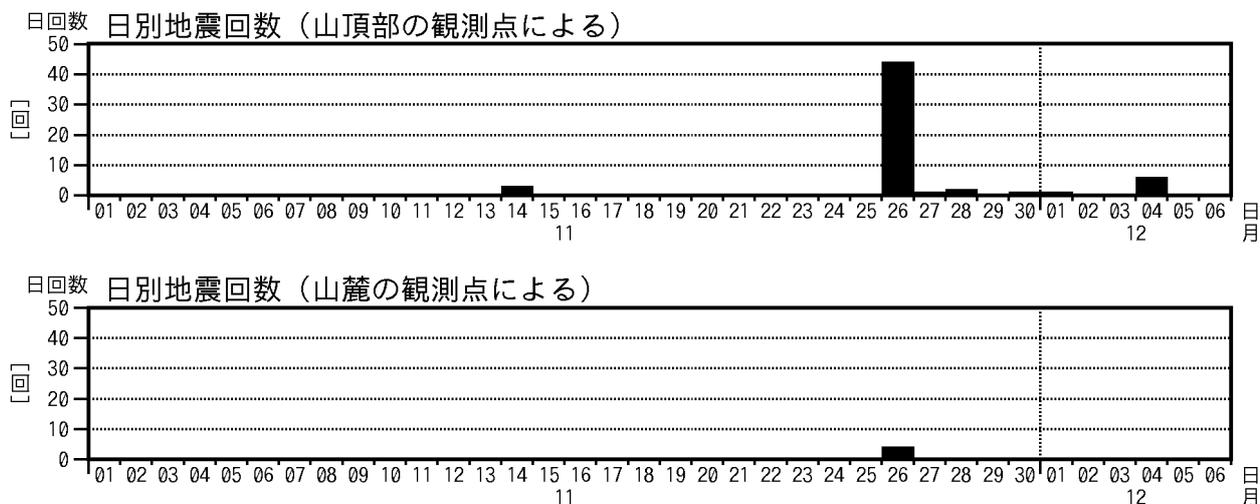


図2 北海道駒ヶ岳 火山性地震の日別地震回数（2017年11月1日～12月6日15時）

上：剣ヶ峯東観測点で計数 下：西山麓観測点で計数

・地震は11月26日に剣ヶ峯東観測点で44回と増加した以降、概ね少ない状態で経過しています



図3 北海道駒ヶ岳 東南東側から見た山頂部の状況
（12月5日、鹿部公園南東監視カメラによる）

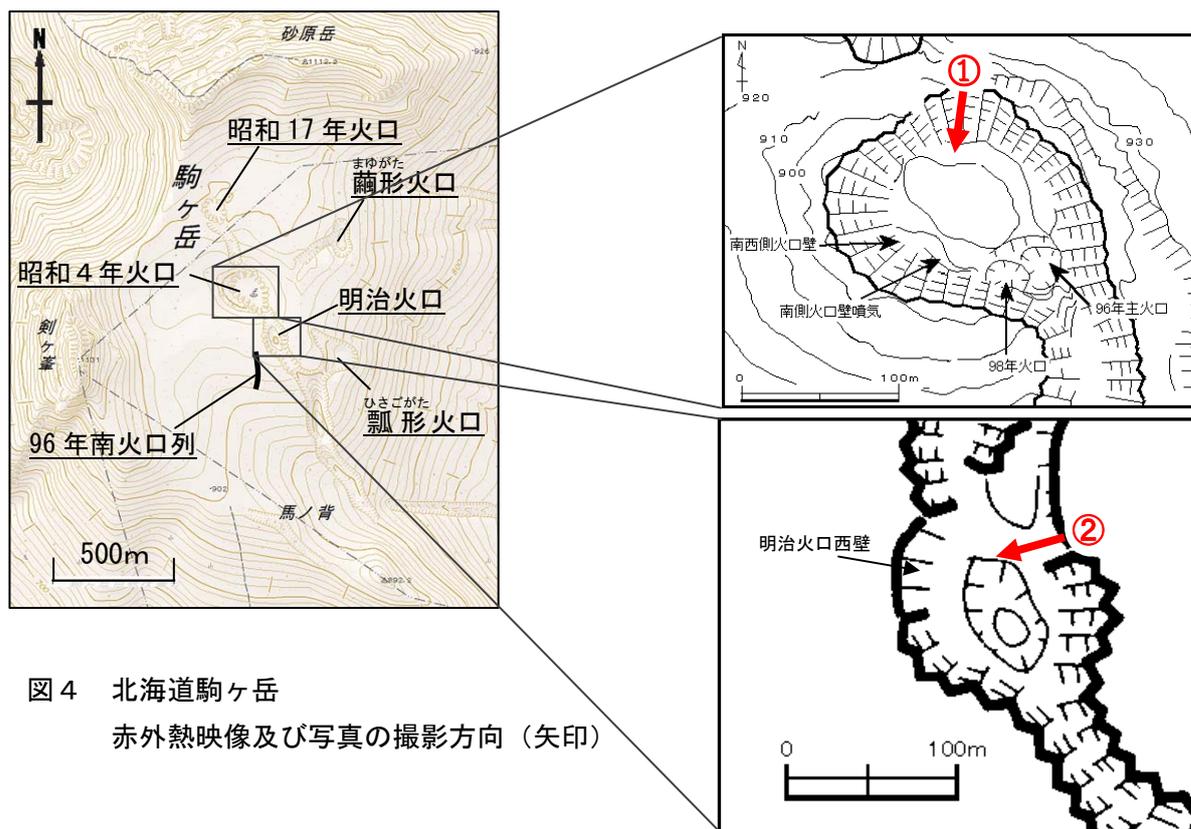


図 4 北海道駒ヶ岳
赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）



図 5 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口の状況（図 4 中の①から撮影）

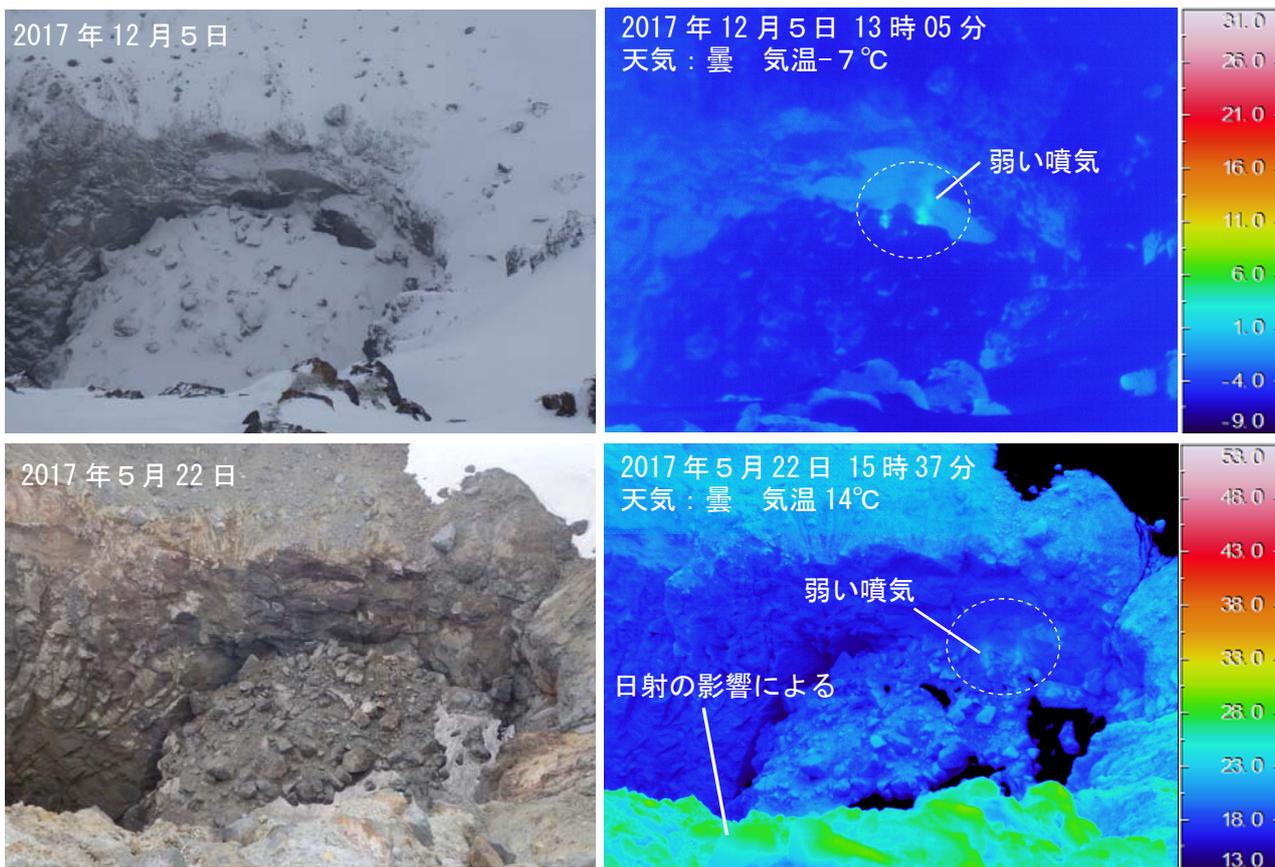


図 6 北海道駒ヶ岳 昭和 4 年火口の地表面温度分布 (図 4 中の①から撮影)
 ・ 2017 年 5 月 22 日と比較して、昭和 4 年火口の地熱域に特段の変化は認められませんでした
 ・ 白色破線部はこれまで観測されている地熱域を示しています

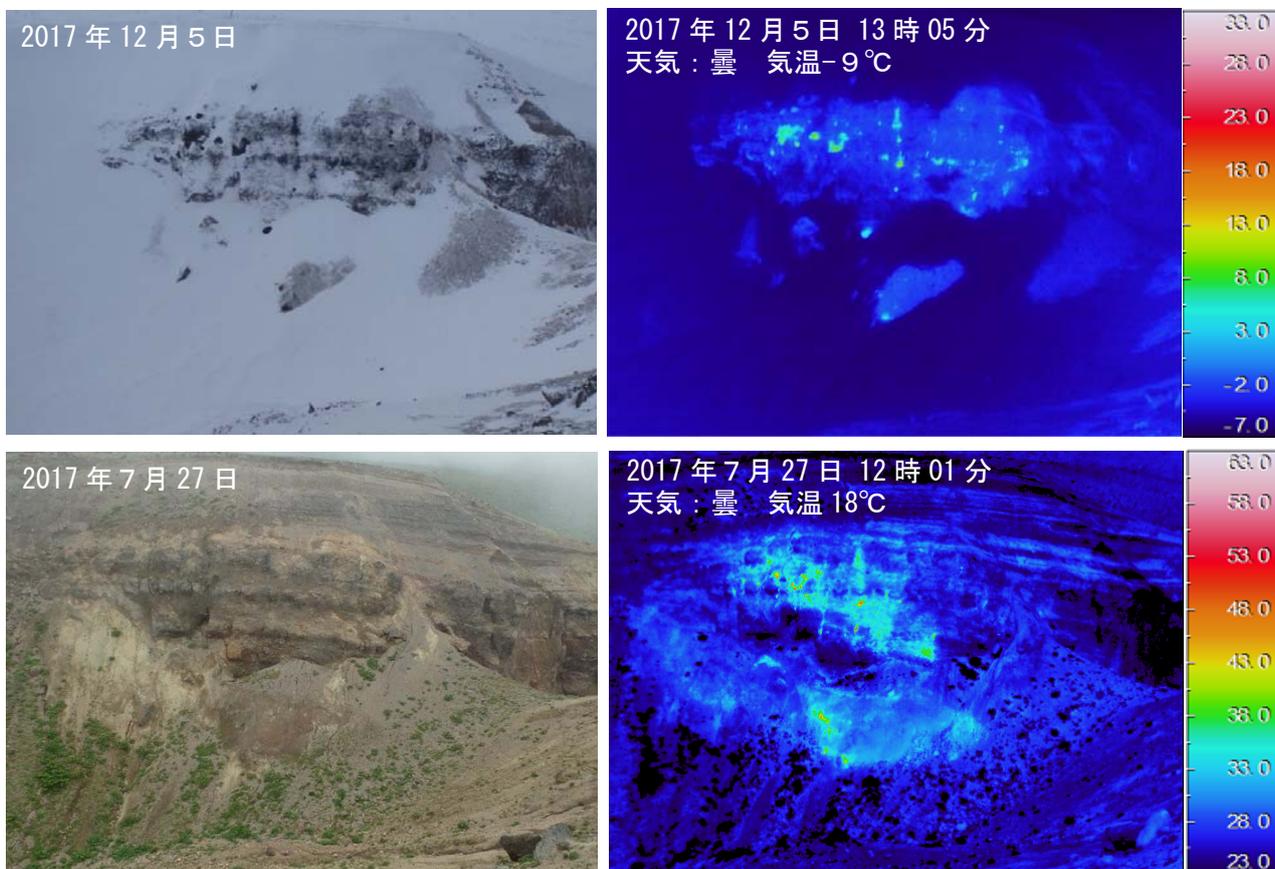


図 7 北海道駒ヶ岳 明治火口西壁の地表面温度分布 (図 4 中の②から撮影)
 ・ 気象条件によって地熱域の見え方が異なりますが、2017 年 7 月 27 日と比較して熱活動の高まっている様子はないと考えられます

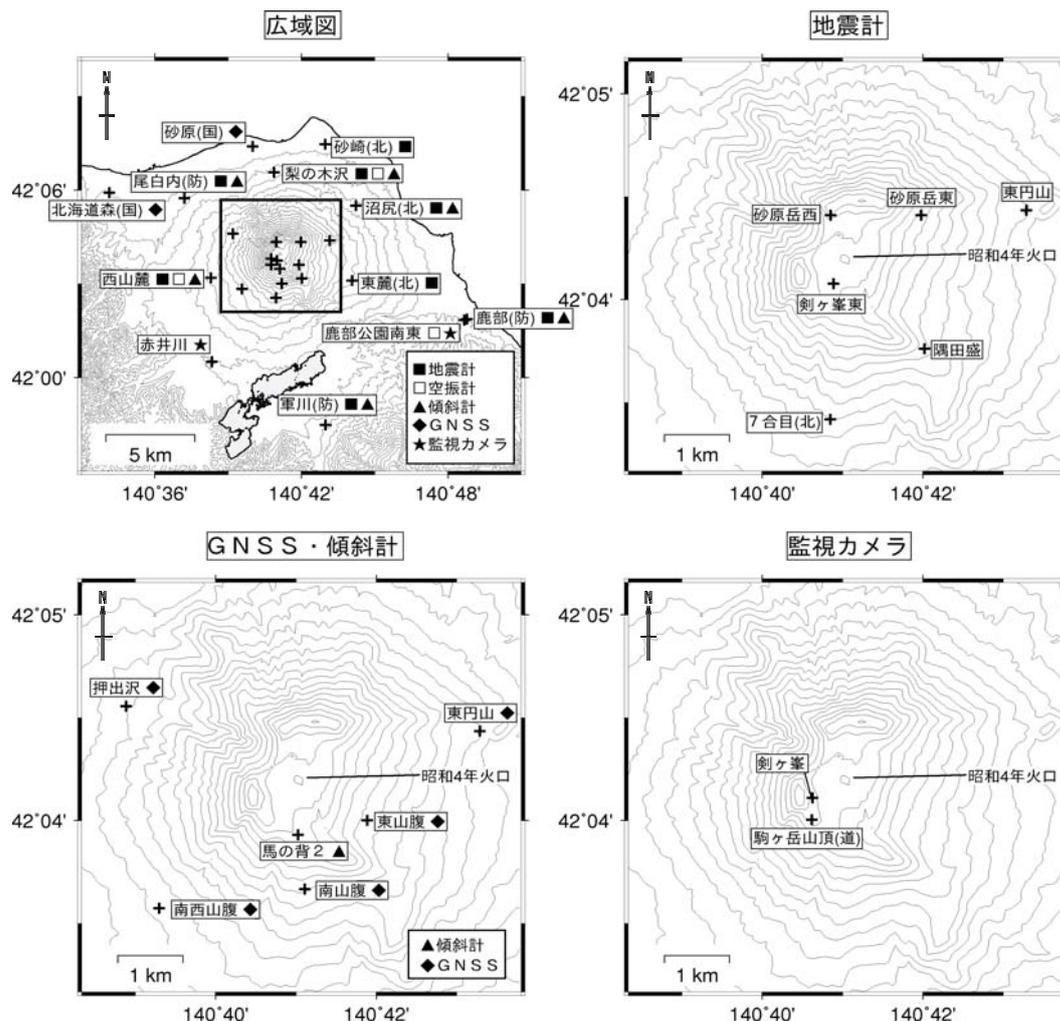


図 8 北海道駒ヶ岳 観測点配置図

各機器の配置図は、広域図内の口で示した領域を拡大したものです

+印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学

(防)：国立研究開発法人防災科学技術研究所

(道)：北海道